

高校生 ICT Conference 2020

in 大阪

「新しい生活様式と ICT 活用法」～行動制限の時代に生きる～

開催報告書

2020年9月6日(日)13:00-17:00

【会場】：オンライン

主催

高校生 ICTカンファレンス実行委員会
(構成団体)

一般社団法人安心ネットづくり促進協議会
大阪私学教育情報化研究会

一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会

共催

内閣府、消費者庁、総務省、文部科学省、経済産業省

2020年9月15日

目 次

1. 開催概要.....	2
2. 高校生 ICT Conference 2020 地域開催.....	4
3. 高校生 ICT Conference 2020 in 大阪 開催概要.....	5
4. 主担当.....	11
5. 高校生 ICT Conference 2020 サミット.....	11
6. 高校生 ICT Conference 最終報告会.....	11
7. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応.....	11

1. 開催概要

名 称：	高校生 ICT Conference 2020 新しい生活様式と ICT 活用法 ～行動制限の時代に生きる～
主催：	高校生 I C Tカンファレンス実行委員会 (構成団体) ● 一般社団法人安心ネットづくり促進協議会 ● 大阪私学教育情報化研究会 ● 一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会
共催：	内閣府、消費者庁、総務省、文部科学省、経済産業省
後援：	大阪府高等学校情報教育研究会、兵庫県私学教育情報化研究会、一般社団法人せんだんの会、情報教育学研究会(IEC)、一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会、全国高等学校情報教育研究会、一般社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会、特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構、独立行政法人情報処理推進機構、一般財団法人マルチメディア振興センター、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構
協賛：	グーグル合同会社、株式会社ラック、グリー株式会社、株式会社サイバーエージェント、株式会社メディア開発総研、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、エースチャイルド株式会社、Twitter Japan 株式会社
協力：	株式会社内田洋行、株式会社 NTT ドコモ、KDDI 株式会社、ソフトバンク株式会社、デジタルアーツ株式会社、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構、ストップイットジャパン株式会社、
開催目的：	<p>高校生 ICT Conference は、2011 年度に「ICT プロジェクト 高校生熟議 in 大阪～ケータイ・インターネットの在り方&活用法～」として大阪でスタートしました。2012 年度は、東京開催を加え計 17 校 79 人の高校生が参加、その後順次規模を拡大し、2019 年度には、全国 19 拠点にて開催し、計 129 校 559 人の高校生が参加しました。</p> <p>高校生 ICT Conference の開催目的には、二つの側面があります。その一つは、教育的側面であり、初対面の人と話し合うという経験の中で、段階的に「考え、まとめる、聞く、話す、見せる、伝える」などの技術を修練することです。第二に社会的に注目を浴びている携帯電話やインターネットをテーマとすることで、大人になる準備段階として、携帯電話やインターネットを安心して安全に使うために、高校生として情報モラルについて自ら深く考え、実践することで、将来のより良いインターネット利用環境の構築の一助とすることです。</p> <p>【本年開催テーマのコンセプト】</p> <p>近年、台風、水害などの自然災害のみならず、世界的な感染症の流行など、かつては想定できなかった事態に遭遇しています。例えば感染症の流行では、外出自粛（登校禁止含む）が長期間に及びました。未だ完全な対策が無い中で、生活様式の</p>

	<p>見直しを求められ、また社会自体も大きく変わろうとしています。</p> <p>高校生が、この環境変化をどう捉え、またどう乗り越えようとするのか、ICT活用という側面から、高校生の目線で、今ある環境の活用、また将来の期待する姿を、様々な視点から考え、紹介また提言する。</p> <p>※平成21年4月から施行された「青少年インターネット環境整備法」に基づき、青少年が安心・安全にインターネットを利用するための環境整備が始まった。民間の自主的・主体的取組が鋭意進められていると共に、行政府に於いても施行状況の検討が進められている。一方、新学習指導要領が平成23年度の小学校を皮切りに、平成24年は中学校、平成25年度は高等学校で全面実施される。また、急速に普及を始めたスマートフォンや新しいICT（情報通信技術）サービスにおいて、青少年が健全にICTを利活用できるように育成するため、青少年への指導に加え、保護者や教職員への「情報モラル教育」の啓発活動が重要視されている。スマートフォンの登場などにより急速に変化したインターネット利用環境下における諸問題について議論し、高校生が家庭や学校で取り組むべき課題とともに、行政、事業者等への要望について本取組で提案し参考に資する。</p>
開催の概要：	<p>【各開催地での内容】※日程は、2. 地域開催の欄をご覧ください。</p> <p>(1) 挨拶 (2) 講演 (3) アイスブレイク (4) 熟議 (5) グループ発表 (6) 講評 (7) サミット参加者発表</p> <p>【東京サミット】</p> <p>(1) 挨拶 (2) アイスブレイク (3) 提言のための熟議 (4) 提言発表 (5) 講評 (6) 最終報告会参加者発表</p> <p>【最終報告会】</p> <p>(1) 各府省庁への提言発表（プレゼン） (2) 質疑応答・意見交換</p>
各開催地	募集参加生徒 30名（各開催地により変動あり）
募集人員等：	募集見学者各回 30名（各開催地により変動あり）
参加参観方法：	参加費・参観無料 [要事前登録]
高校生 ICT Conference2020 実行委員会：	<p>【委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 米田謙三（大阪私学教育情報化研究会 副会長） <p>【コアメンバー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 石田幸枝（公益社団法人全国消費生活相談員協会 IT研究会理事・消費者団体訴訟室長） ・ 猪股 富美子（お茶の水女子大学 人間発達科学研究所） ・ 植田 威（特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム理事） ・ 小城 英子（聖心女子大学） ・ 他、関係者団体、事業者等

	【事務局】 一般社団法人安心ネットづくり促進協議会 〒104-0031 東京都中央区京橋三丁目 14 番 6 号 斎藤ビル 2 階 TEL: 03-3562-8850 FAX: 03-3562-1180
--	---

2. 高校生 ICT Conference 2020 地域開催

高校生 ICT Conference 地域開催では参加した高校生がテーマに沿った議論を実施し、サミットへ行く代表者を選抜します。

地域	開催日	開催方法	システム	備考
北海道	10月11日	オンライン	Zoom	
茨城	10月27日	オンライン	Google Meet	
神奈川	10月17日	オンライン	Zoom	
新潟	9月13日	オンライン	Zoom	
石川	10月11日	オンライン	Zoom	
長野	10月17日	オンライン	Zoom	
静岡	10月18日	オンライン	Zoom	
大阪	9月6日	オンライン	Zoom	
奈良	10月4日	オンライン	Zoom	
高知	10月24日	オンライン	Zoom	
福岡	10月25日	ハイブリッド	Zoom	
佐賀	10月4日	オンライン	Zoom	
大分	10月10日	オンライン	Zoom	
鹿児島	10月17日	オンライン	Zoom	
オンライン	11月1日	オンライン	Zoom	
サミット	11月15日	オンライン	Zoom	

東京サミットへは各地域で独自で実施した情報モラル・リテラシー啓発サミットからのオブザーバー参加者を招待予定。(サミット熟議のみ参加) ※2019年度実績：福井

<p>概要</p>	<p>高校生、教員、企業関係者など 71 名の参加者を得て、Zoom を使ったオンライン形式で、「新しい生活様式と ICT 活用法」～行動制限の時代に生きる～をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>【熟議】 司会進行・主旨説明 実行委員長 米田謙三 様 高校生 ICT Conference の概要及び本日の大まかな流れを説明し、オンラインならではのポイントや主旨なども説明しました。 (サポート 清教学園高校 勝田 浩次様)</p> <p>開会の挨拶 総務省 近畿総合通信局 電気通信事業課 課長 稲垣 裕介 様 総務省の業務について説明いただいたうえで、高校生 ICT Conference の目的は、高校生自身が、スマホやネットの利用について深く考え、自ら実践し、社会に提言することにあることとお話いただきました。また現在コロナ渦の中で、SNS での誹謗中傷などネットによるトラブルが多く発生し社会問題になっていることを踏まえ、また、「新しい生活様式と ICT 活用法」について、議論して欲しい旨の期待もいただきました。</p> <p>第一部 事業者による講演 エースチャイルド株式会社 A 's Child Inc. (エデュケーショナル・ストラテジスト) 飯島 淳 様 エースチャイルド社の取り組みから、リモートワークや協働、特に他者が必要とする自身の能力を組み合わせることの重要性について、「出会いは才能だ」という点からお話をいただきました。また、リアルとネットをつなぐ ICT 技術も紹介していただき全力で熟議をきたいするという熱いメッセージをいただきました。</p> <p>【アイスブレイク、熟議注意点説明】 清教学園高等学校 勝田先生 これからの熟議に向け説明とアイスブレイクについても紹介しました。</p> <p>アイスブレイク、 自己紹介 ファシリテーター・参加校紹介 および グループ分け 8つのグループのブレイクアウトルームにわかれてから、それぞれのグループのファシリテーターを務める大学生から本日の目標、アイスブレイク、自己紹介などを実施しました。</p> <p>第二部：熟議「新しい生活様式と ICT 活用法」～行動制限の時代に生きる～ ブレイクアウトルームで8つのグループに分かれ大学生がファシリテーターと</p>
-----------	---

なって、高校生熟議を開始しました。まずは「学業の視点から」次に「コミュニケーション能力の視点から」ということを中心に Google スライドを活用しながら意見を整理分類しまとめて行きました。具体的な使い方については、テーマにしぼった班や少し大きなテーマで取り組んだ班などいろいろとありました。熟議の中で分からない事は、企業の方や先生方にも随時サポーターとして入っていただき、すばやく答えてくださいました。今回、ファシリテーターは大学生でしたが、事前にオンラインでのフォームやまとめ方を打ち合わせして、滞りなくまとめることができました。（研修を今年も4回ほどファシリテーターのみで実施しました）

今回の大阪の熟議の大切にしたいポイント

- 1 学校にいけない中で、あなたはどのICT機器を勉強に使い、その機器は授業の代替え機能を果たしましたか。一ヶ月を超える長い時間で感じたメリット、デメリットはなんでしたか。足りなかったところ、改善すべき課題を拾い出してみよう
- 2 SNSがあったことでできたクラス、部活、生徒会の仲間との意思疎通やふれあいはいかがでしたか？ 使い過ぎになったり、SNS等で友達どうしトラブルになったり、これまで交流の無かった人からの接触等での事故はありませんでしたか。コミュニケーションにおいて気を付けたこと、使用するにあたって心掛けたことはありますか？
- 3 ICT機器は、学校、地域が機能しなくなる中で、その機能を代替えするには何が足りないと感じましたか。

（詳細は別紙「熟議録」をご参照ください）

参考：各班のポイント 4班が代表グループに選ばれました。

【1班】 SNSでのトラブルを無くすには

- ・ITの授業で ソーシャルメディアリテラシーかつアクティブラーニングを導入 特に誹謗中傷を取り上げる

【2班】 情報と生活が偏らないように

- ・先生がネットについて学び、生徒が困らないように
- ・ネットに強い先生を多く置く（特に公立高校）
- ・半年に一回オンライン授業を実施して慣らしておく
- ・国がある程度オンラインを統一

⇒月に一度、遅れている学校を重点的にネットに強い先生のサポートを受けオンライン授業を義務化

災害時：ネットが繋がらない時の処置 携帯会社が動くより、国の自衛隊が動く（地域によっては防災）

【3班】 Fair Every School みんなが使いやすいツールを求めて・・・

- ・教育格差

国が全国で統一した誰でも使える教育アプリを
先生向け使い研修、教育実習
年代別教育アプリやSNSの使い方支援

家庭の収入ごとに長期的支援
学校に行かずとも学べる環境の構築
FES というアプリの提案

【4班】 ドラえもん時代の学習形態 ～オンライン授業の今後の発展～

・高校生が考えたオンライン授業

- ① 夏場・冬場 = 寒暖差 登校が厳しい
- ② 英語教育 = 「生きた英語」が学べない

問題①：Wi-Fi等の環境整備 解決策：市町村での取組を強化

問題②：人間関係の構築 解決策：コミュニケーションを重視した授業を増やす
家＝学習の場 学校＝コミュニケーションの場

【5班】 ICTを使うまでのサポート！

・ICT関係上のトラブルを自分で調べる事なく

自分での解決をサポートする

遠隔操作でトラブルの解決方法を提示 シンプルな説明 丁寧な誘導

ログイン方法 サービス方法 プライバシー対応
(遠隔操作など)

【6班】 ICTを使い、教育格差をなくす！ ～with コロナで見えてきた問題点～

・教育格差の改善

授業内容・人材も含めて

・資金調達の必要性

政府の資金分配や寄付をもらう(申請)

無線ネット環境

デバイス

【7班】 身近になった情報とのつきあい方

- ・情報を自分で見分ける力。
- ・人間の五感を意識して生活。
- ・物事にチャレンジする。
- ・心を休め、情報への見方を変えてみる。
- ・意見を言い合える場所の整備。
- ・過激な発言や情報の偏りを防ぐために、実際に体験した人などの意見を中心に扱う。

【8班】 メディアリテラシーとオンラインの共存

・小さい子に対して IT 関連に触れる機会を

→絵本や劇にする

・大人に関しては有名人に広告などをしてもらう

・匿名性を減らして欲しい

	<p>第三部：グループ発表</p> <p>各グループともプレゼンテーションソフト（Google スライド）を活用して3分の発表を行いました。（詳細は別紙「グループ発表資料」をご参照ください）</p> <p>講評：大阪私学教育情報化研究会 副会長 米田謙三 様</p> <p>初のオンライン開催ではあったが、大学生のファシリテーターのもと議論が進み素晴らしい開催となった。オンラインでも活発に意見交換がされ、短い時間の中で提言をまとめることができ、今後、オンラインでの話し合い、発表等が増えると想定される中で有意義な開催となった。話し合った事を、学校に戻っても話しあい活かして欲しいと、未来を創る担い手にエールを送りました。</p> <p>その後、参加生徒により、11月3日に開催される東京サミットに行くグループの選定投票を行い、またそのグループで代表者の選定投票を行い関西学院千里国際高等部が代表校に選出され、全体会で発表されました。</p>
参加校：	<p>兵庫県立福崎高等学校 関西学院千里国際高等部 羽衣学園高等学校 東海大学付属大阪仰星高等学校 早稲田大学系属早稲田摂陵中学校・高等学校 神戸学院大学附属高等学校 大阪市立東高等学校 清教学園中・高等学校</p> <p style="text-align: right;">（順不同）</p>
日 時：	2020年9月6日（日） 13:00-17:00
場 所：	オンライン
参加人数：	<p>熟議参加生徒 39人 見学者・関係者 32人（教員・教育関係者・その他） 合計： 71人</p>
熟議グループ：	<p>熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。（敬称略）</p> <p>【1班】 5名 神戸学院大学附属高等学校2年男子、関西学院千里国際高等部3年女子、早稲田大学系属早稲田摂陵中学校・高等学校1年男子、兵庫県立福崎高等学校2年男子、羽衣学園高等学校1年女子 [ファシリテーター] 環太平洋大学 片山翔太</p> <p>【2班】 5名 東海大学付属大阪仰星高等学校3年女子、関西学院千里国際高等部3年男子、兵庫県立福崎高等学校2年男子、神戸学院大学附属高等学校1年女子、早稲田大学系属</p>

早稲田摂陵中学校・高等学校 1年男子

〔ファシリテーター〕

大阪工業大学 本田 麻依

【3班】 5名

大阪市立東高等学校 3年女子、兵庫県立福崎高等学校 2年女子、兵庫県立福崎高等学校 2年男子、関西学院千里国際高等部 3年男子、東海大学付属大阪仰星高等学校 2年男子

〔ファシリテーター〕

関西学院大学 足立 晴香

【4班】 5名

神戸学院大学附属高等学校 3年男子、関西学院千里国際高等部 1年女子、兵庫県立福崎高等学校 2年男子、早稲田大学系属早稲田摂陵中学校・高等学校 1年男子、神戸学院大学附属高等学校 1年男子

〔ファシリテーター〕

追手門学院大学 桑原 憲祐

【5班】 5名

早稲田大学系属早稲田摂陵中学校・高等学校 1年女子、関西学院千里国際高等部 3年女子、神戸学院大学附属高等学校 1年女子、東海大学付属大阪仰星高等学校 3年女子、兵庫県立福崎高等学校 2年女子

〔ファシリテーター〕

パナソニック健康保険組合立松下看護専門学校 南 柚那

【6班】 5名

清教学園中・高等学校 1年男子、早稲田大学系属早稲田摂陵中学校・高等学校 1年女子、兵庫県立福崎高等学校 2年女子、神戸学院大学附属高等学校 2年男子、羽衣学園高等学校 1年女子

〔ファシリテーター〕

大和大学 藤本 聖也

【7班】 5名

兵庫県立福崎高等学校 2年男子、早稲田大学系属早稲田摂陵中学校・高等学校 1年男子、神戸学院大学附属高等学校 3年男子、羽衣学園高等学校 2年女子、神戸学院大学附属高等学校 2年男子、

〔ファシリテーター〕

関西大学 池西風美

【8班】 4名

東海大学付属大阪仰星高等学校 2 年男子、神戸学院大学附属高等学校 1 年女子、羽衣学園高等学校 2 年女子、兵庫県立福崎高等学校 2 年女子

[ファシリテーター]

神戸学院大学 山口 智大

主担当

一般社団法人安心ネットづくり促進協議会	事務局
大阪私学教育情報化研究会 一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動 全国連絡会	会場、什器備品手配 飲食手配、庶務
各団体、事業者等	講演、資料提供 他

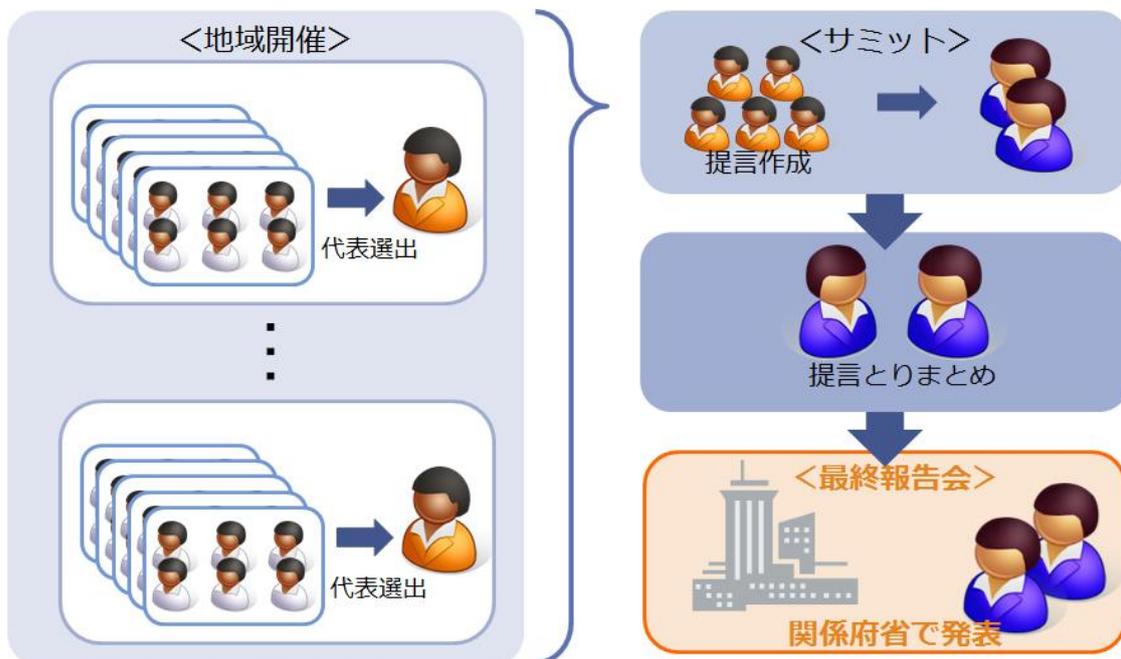
3. 高校生 ICT Conference 2020 サミット

高校生 ICT Conference 2020 サミットは、各地で開催された Conference の成果を高校生の代表として提言をまとめるための場です。その代表者の選考は以下の手順によります。

- 1) 参加が決まった場合、参加生徒を決めていただき、事前に登録をする
- 2) 熟議終了後、参加生徒の投票を基に代表を選出
- 3) 各地の代表者でサミット開催
- 4) サミット終了後、最終報告会で発表する代表を上記手順と同様に選出
- 5) 最終報告会代表者が、サミットの内容を提言にまとめ、最終報告会で提言発表を行う

4. 高校生 ICT Conference 最終報告会

高校生 ICT Conference 2020 サミットで検討された提言を、選出された代表者が報告用にとりまとめ、関係府省庁にて報告を行うとともに、関係府省担当者との意見交換によりコミュニケーションを語る。



5. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応

- 1) グループ発表資料保存（又は模造紙など発表紙面の撮影）
- 2) Conference 終了後、発表内容、講評と併せて高校生 ICT Conference のサイトにアップデート
- 3) 高校生 ICT Conference 2020 サミット終了後、実行委員会にて取りまとめ
- 4) 高校生 ICT Conference 2020 サミット代表者による最終報告会用資料の作成
- 5) 最終報告会での発表

以上